

子育て・子育てに待ったなし！急がれる支援制度

「子どもの最善の利益」の視点で、

子育て・子育てができる西東京へ

虐待防止へ 訪問型支援の充実を

子ども・子育て新システムが来年4月に自治体の仕組みとしてスタートします。新制度では、保育の受け入れ人数を増やすことや、親子が交流できる拠点を増やすなど、地域のニーズに応じた多様な子育て支援を充実させる取り組みの実施がめざされています。

保育の質を犠牲にしない待機児解消を

西東京市も、事業計画の策定に向け、子育て中の方へ無作為抽出でアンケートを実施。母親が仕事を「している」「していない」はほぼ半々で、仕事をしていない方の約7割が「すぐにも、もしくは1年以内で就労したい」と回答しています。しかし、市内の待機児は、今年4月1日には193人で、保育所の定員増は喫緊の課題です。同時に、待機児解消を急ぐあまりに、保育の質が犠牲にならないようにチェックしていくことも必要です。

生活者ネットの調査で

は、孤立している親への支援を求める声が多数でした。在宅での子育ても含め、子育て期を支える制度と拠点づくりで孤立した親への支援の推進、虐待防止や心のケアに向けた、訪問型の子育て支援を充実させること、ひとり親家庭など、困難を抱える子育て家庭への支援を充実させることが重要です。

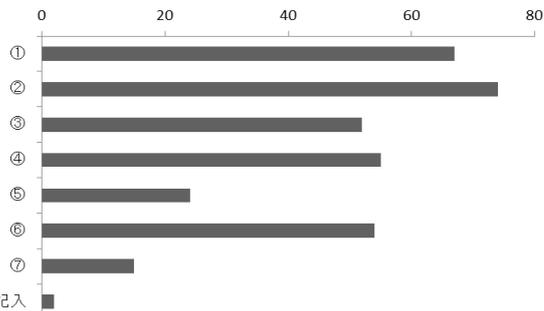
子育ての応援に 地域の力の出番

また、子どもの6人に1人が貧困状態にあり、学習の機会を十分に得られない子どもの増加も深刻です。いじめや不登校の問題も生活環境や社会との関係とも密接に関わっており、これらの問題を、いち早く把握し対応するために1校に1人のスクールソーシャルワーカーが必要と考えます。

また、地域の力を活用し、子どもの居場所をつくっていくことも重要です。

■地域の子ども・子育て政策として、いま生活者ネットワークで取り組むべき課題は何だと思いますか？（選択は2つまで）

- | | |
|-------------------------------|----|
| ①待機児の解消（保育園、学童保育） | 67 |
| ②孤立している母親への支援 | 74 |
| ③いじめ、不登校、ひきこまりなど困難を抱える子どもへの支援 | 52 |
| ④虐待（暴力、育児放棄など）の早期発見と予防 | 55 |
| ⑤障がいを持つ子どもと親への支援 | 24 |
| ⑥子どもの居場所づくりや遊び | 54 |
| ⑦その他 | 15 |



※今年4月～10月20日までの回答回収結果。
生活者ネットは毎年、一言提案活動を実施しています。

「あさやけ子ども食堂」

地域の見守りをつなげる場

生活が大変な家の子ども、親の帰りが遅くて孤食の子ども、そんな子どもたちを地域で支える、豊島区の「要町あさやけ子ども食堂」を見学しました。

2週間に1度、民家を借りて開かれる食堂には、誘い合ってきた子どもや親子がいっぱい！ボランティアさんの作った料理を囲みながら、和やかなひと時を過ごします。食材を提供してくれる商店街の方々や、勉強を教えてくれる大学生、地域の見守りの人たちをこの食堂がつかっています。

「大それた支援をしようとしたわけじゃない。ただ一緒にご飯を食べているだけで、変わっていくことがあるんです」と、NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク代表の栗林知絵子さん。困りごとをポツポツと話し始める子ども、自分の子どもが愛されている姿を見て心を開きはじめて母親：「あたたかな食事と「ここに居てもいいよ」というメッセージには、人と人との関係性を変える力があることを感じさせられました。

西東京市にも、学童クラブ後の子どもたちの居場所づくりにはチャレンジしようとしているグループがあります。そんな地域からの提案を、ぜひ実現へ結び付けていきたいと思っています。



あさやけ食堂の厨房